

皮膚科学講座

Dermatology

教授	清水 忠道	Tadamichi Shimizu
講師	牧野 輝彦	Teruhiko Makino
助教	乗杉 理	Osamu Norisugi
助教	渡辺 宏数	Hirokazu Watanabe
助教	松井恒太郎	Koutarou Matsui
助教	浅野 幸恵	Yukie Asano
助手	竹上與志昌	Yoshiaki Takegami
助手	古市 恵	Megumi Furuichi
技術専門職員	松永 憲治	Kenji Matsunaga

◆ 著 書

- 1) Yamagishi S., Nakamura K., Matsui T., Inoue H., Makino T., Shimizu T., and Takeuchi M.: Role of advanced glycation end products (AGEs) in cell growth and death, In Focus on Apoptosis Research, by Daniel D. Boole (Ed.) 119-137, Nova Science Publishers, New York, 2007.
- 2) 清水忠道：サイトカインと皮膚疾患。「日本皮膚科学会認定皮膚科専門医研修講習会テキスト（東部支部企画）」, 社団法人日本皮膚科学会, 東京, 2007.

◆ 原 著

- 1) Nemoto I., Shimizu T., Fujita Y., Tateishi Y., Tsuji-Abe Y., and Shimizu H.: Tumor-like muscular sarcoidosis. Clin. Exp. Dermatol., 32: 298-300, 2007.
- 2) Makino T., Nagasaki A., Furuichi M., Matsui K., Watanabe H., Sawamura D., Shimizu H., and Shimizu T.: Novel mutation in a fumatase hydratase gene of a Japanese patient with multiple cutaneous and uterine leiomyomatosis. J. Dermatol. Sci., 48 : 151-153, 2007.
- 3) Makino T., Furuichi M., Watanabe H., Yoshihisa Y., and Shimizu T.: Keishibukuryogan (Gui-Zhi-Fu-Ling-Wan), a Kampo formula decreases the disease activity and the level of serum thymus and activation-regulated chemokine (TARC) in patients with atopic dermatitis. J. Trad. Med., 24 : 168-170, 2007.

◆ 症例報告

- 1) 浅野幸恵, 清水教子, 竹上與志昌, 乗杉 理, 牧野輝彦, 清水忠道: 正常皮膚色を呈した angiolymphoid hyperplasia with eosinophilia の 1 例. 皮膚臨床, 49 (11) : 1389-1391, 2007.
- 2) 竹上與志昌, 乗杉 理, 牧野輝彦, 清水忠道, 伊藤靖典, 宮脇利男: 間質性肺炎を合併した小児皮膚筋炎. 皮膚病診療, 29 : 579-582, 2007.
- 3) 清水教子, 日野孝之, 竹上與志昌, 浅野幸恵, 古市 恵, 乗杉 理, 牧野輝彦, 清水忠道: 顔面に生じた巨大な外傷後類表皮囊腫. 皮膚科の臨床, 49 (3) : 371-374, 2007.
- 4) 小玉和郎, 根本育恵, 藤田靖幸, 阿部由紀子, 清水忠道, 清水 宏: Scleroderma 様変化を伴った interstitial granulomatous drug reaction. 日本皮膚病理組織学会会誌, 22 : 6-9, 2007.

◆ 総 説

- 1) 清水忠道: 光発癌と紫外線感受性遺伝子. 皮膚病診療, 29 (3) : 246-252, 2007.
- 2) 清水忠道: 炎症性皮膚疾患の新しい治療の開発を目指して. 富山大学医学会誌, 17 (1) : 1-4, 2006 (2007 年発行).

◆ 学会報告

- 1) Makino T., Itazawa T., Kanegane H., Miyawaki T., and Shimizu T.: Detection of C778T mutation of CIAS1 gene in Japanese patient with familial cold autoinflammatory syndrome. The 32nd Annual Meeting of The Japanese Society for

- Investigative Dermatology, 2007, 4, 18-20, Yokohama.
- 2) Watanabe H., Makino T., Norisugi O., Abe R., Shimizu H., and Shimizu T.: The role of macrophage migration inhibitory factor (MIF) on the proliferation and differentiation in the epidermis. The 32nd Annual Meeting of The Japanese Society for Investigative Dermatology, 2007, 4, 18-20, Yokohama.
 - 3) Makino T., Ngyun NT., Chen CH., Shimizu T., Rizzo AC., and Marinkovich MP.: The role of collagen XVII in ras-driven human epidermal tumorigenesis. The 68th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, 2007, 5, 9-12, Los Angeles.
 - 4) Asano Y., Makino T., Norisugi O., Watanabe H., Abe R., Shimizu H., and Shimizu T.: Increased macrophage migration inhibitory factor (MIF) in sera of patients with bullous pemphigoid. The 68th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, 2007, 5, 9-12, Los Angeles.
 - 5) Makino T., Furuichi M., Watanabe H., Yoshihisa Y., and Shimizu T.: Keishibukuryogan decreases the disease activity and the level of serum macrophage migration inhibitory factor in patients with atopic dermatitis. Innovative Team Program in Peking University · 21st Century COE Program in University of Toyama Joint Symposium –Evidence-based Approach to Traditional Medicine and Modern Medicine–, 2007, 5, 25, Beijing.
 - 6) Yamaguchi M., Teramura K., Tahara Y., Makino T., Shimizu T., and Date A.: Evaluation of photo-stress of skin using cathepsin L. World Conference of Stress Including the 3rd Cell Stress Society International Congress on Stress Responses in Biology and Medicine, 2007, 8, 23-26, Budapest, Hungary.
 - 7) 清水忠道：炎症レベルから診たアトピー性皮膚炎—新たな治療法を目指して—。第17回信州大学医学部皮膚科学教室同門会定例総会（特別講演）2007, 1, 28, 松本。
 - 8) 清水忠道：アトピー性皮膚炎—炎症レベルから新しい治療を探る—。第3回大阪アレルギーネットワーク（特別講演），2007, 2, 22, 大阪。
 - 9) 清水忠道：炎症レベルから診たかゆみ—新たな治療法を目指して—。第1回上越皮膚疾患セミナー（特別講演），2007, 3, 9, 新潟。
 - 10) 清水忠道：炎症レベルから診たアトピー性皮膚炎。第12回京都皮膚科治療フォーラム（特別講演）2007, 3, 15, 京都。
 - 11) 清水忠道：アトピー性皮膚炎患者に対する有効な漢方薬の検討及び臨床研究。2007年度第2回21世紀COEプログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」研究成果報告会（富山大学），2007, 3, 19, 富山。
 - 12) 清水忠道：菌状息肉症の最近の話題。富山皮膚科総会（特別講演）2007, 5, 27, 富山。
 - 13) 清水忠道：かゆみのメカニズムを探る—炎症レベルから診たかゆみ—。第414回日本皮膚科学会北陸地方会（特別講演）2007, 6, 24, 金沢。
 - 14) 清水忠道：サイトカインと皮膚疾患。第71回日本皮膚科学会東部支部学術大会「東部支部企画研修講習会」（教育講演），2007, 9, 22-23, 札幌。
 - 15) 清水忠道：アトピー性皮膚炎治療最前線。第58回日本皮膚科学会中部支部学術大会（イブニングセミナー）2007, 10, 20, 京都。
 - 16) 清水忠道：アトピー性皮膚炎に対する桂枝茯苓丸の治療効果および新しい重症度指標の検討。富山大学21世紀COEプログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」（シンポジウム），2007, 11, 16, 富山。
 - 17) 清水忠道：コラーゲン代謝からみた“しわ”の発症機序。太陽紫外線の日本人におけるリスク総合研究班研究会，2007, 11, 16, 京都。
 - 18) 清水忠道：皮膚炎症におけるサイトカインの臨床応用—過去から未来へ—。第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会（モーニングセミナー），2007, 12, 16, 名古屋。
 - 19) 古市 恵, 牧野輝彦, 原 寛, 松井恒太郎, 渡辺宏数, 清水忠道：小児壊疽性膿皮症の1例。第413回日本皮膚科学会北陸地方会，2007, 2, 25, 金沢。
 - 20) 原 寛, 乗杉 理, 清水教子, 竹上與志昌, 浅野幸恵, 牧野輝彦, 清水忠道：紅皮症の経過中に肺扁平上皮癌を発見した1例。第413回日本皮膚科学会北陸地方会，2007, 2, 25, 金沢。
 - 21) 乗杉 理, 浅野幸恵, 竹上與志昌, 清水教子, 原 寛, 清水忠道, 坂村律生：腹部に生じた deep cavernous lymphangioma の1例。第413回日本皮膚科学会北陸地方会，2007, 2, 25, 金沢。
 - 22) 牧野輝彦：皮膚疾患における免疫学的な病態形成の解明やその治療法の確率。皮膚科免疫セミナー，2007, 3, 3, 東京。
 - 23) 渡辺宏数：アトピー性皮膚炎の正しいスキンケア。第13回アレルギー週間記念行事，アレルギー疾患講演会と

相談会, 2007, 3, 4, 富山.

- 24) 岡部素典, 乗杉 理, 吉田淑子, 戸田文香, Teng Zan, 米田徳子, 野上真紀子, 樋口 収, 木村友厚, 宮脇利男, 齋藤 滋, 清水忠道, 二階堂敏雄: 乾燥羊膜によるマウス創傷の治癒効果. 第 6 回日本再生医療学会学術大会, 2007, 3, 13-14, 横浜.
- 25) 渡辺宏数, 福長将仁, 小玉和郎, 柴田雅彦, 島田裕子, 清水 宏, 清水忠道: *Borrelia valaisiana* と *Borrelia afzelii* の混合感染を認めた *lymphocytoma cutis* の 1 例. 第 369 回日本皮膚科学会北海道地方会, 2007, 3, 24-25, 札幌.
- 26) 浅野幸恵, 牧野輝彦, 乗杉 理, 渡辺宏数, 阿部理一郎, 清水 宏, 清水忠道: マクロファージ遊走阻止因子と水疱性類天疱瘡. 第 32 回日本研究皮膚科学会学術大会, 2007, 4, 18-20, 横浜.
- 27) 渡辺宏数, 福長将仁, 小玉和郎, 柴田雅彦, 島田裕子, 清水 宏, 清水忠道: *Borrelia valaisiana* と *Borrelia afzelii* の混合感染を認めた *lymphocytoma cutis*. 第 106 回日本皮膚科学会学術大会, 2007, 4, 20-22, 横浜.
- 28) 浅野幸恵, 清水教子, 竹上與志昌, 乗杉 理, 牧野輝彦, 清水忠道: 正常皮膚色を呈した *angiolympoid hyperplasia with eosinophilia* の 1 例. 第 106 回日本皮膚科学会学術大会, 2007, 4, 20-22, 横浜.
- 29) 古市 恵, 牧野輝彦, 原 寛, 松井恒太郎, 渡辺宏数, 清水忠道: 小児壞疽性膿皮症の 1 例. 第 106 回日本皮膚科学会学術大会, 2007, 4, 20-22, 横浜.
- 30) 清水教子, 乗杉 理, 原 寛, 竹上與志昌, 浅野幸恵, 清水忠道: 平滑筋肉腫の 2 例. 第 23 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2007, 5, 11-12, 新潟.
- 31) 竹上與志昌, 乗杉 理, 原 寛, 清水教子, 浅野幸恵, 清水忠道: 膿疱を呈したアンダーーム軟膏[®]による接触皮膚炎. 第 28 回富山免疫アレルギー研究会, 2007, 5, 31, 富山.
- 32) 古市 恵, 吉久陽子, 渡辺宏数, 牧野輝彦, 清水忠道: アトピー性皮膚炎に対する桂枝茯苓丸の治療効果の検討—血清 MIF 値を指標として—. 第 16 回日本アレルギー学会春季臨床大会学術大会, 2007, 6, 10-12, 横浜.
- 33) 渡辺宏数: 昆虫, 原虫による皮膚疾患. 第 11 回北陸皮膚科セミナー (教育講演), 2007, 6, 17, 福井.
- 34) 古市 恵, 牧野輝彦, 渡辺宏数, 引網宏彰, 嶋田 豊, 清水忠道: アトピー性皮膚炎に対する桂枝茯苓丸の治療効果の検討. 第 58 回日本東洋医学会学術大会, 2007, 6, 16-17, 広島.
- 35) 竹上與志昌, 乗杉 理, 原 寛, 清水教子, 浅野幸恵, 清水忠道, 崎田茂晃: *Pseudocarcinomatous hyperplasia* を呈した苔癬型薬疹の 1 例. 第 414 回日本皮膚科学会北陸地方会, 2007, 6, 24, 金沢.
- 36) 松井恒太郎, 渡辺宏数, 原 寛, 古市 恵, 牧野輝彦, 清水忠道: 顔面に発生した巨大な囊腫型基底細胞癌の 1 例. 第 415 回日本皮膚科学会北陸地方会, 2007, 6, 24, 金沢.
- 37) 乗杉 理, 浅野幸恵, 竹上與志昌, 清水教子, 原 寛, 坂村律生, 清水忠道: 腹部に生じた *deep cavernous lymphangioma* の 1 例. 第 31 回日本小児皮膚科学会学術大会, 2007, 7, 7-8, 福岡.
- 38) 北市伸義, 清水忠道, 本田 歩, 吉田和彦, 加瀬 諭, 大神一浩, 大野重昭: MIF 過剰発現による紫外線角膜炎の軽症化. 第 29 回日本光医学・光生物学会, 2007, 7, 12-13, 富山.
- 39) 渡辺宏数: 水虫の話. しらいわ苑依頼講演会, 2007, 7, 25, 富山.
- 40) 松永憲治, 清水教子, 吉久陽子, 清水忠道: 走査型電子顕微鏡を用いることにより診断に至った捻転毛の 1 例. 平成 19 年度機器・分析技術研究会, 2007, 8, 23-24, 富山.
- 41) 清水教子, 乗杉 理, 原 寛, 竹上與志昌, 浅野幸恵, 松永憲治, 清水忠道: 先天性捻転毛. 第 415 回日本皮膚科学会北陸地方会・富山県分科会, 2007, 9, 1, 富山.
- 42) 山腰高子, 牧野輝彦, 古市 恵, 松井恒太郎, 渡辺宏数, 清水忠道: *Giant vascular eccrine spiradenoma* の 1 例. 第 415 回日本皮膚科学会北陸地方会・富山県分科会, 2007, 9, 1, 富山.
- 43) 引網宏彰, 条美智子, 中川孝子, 野崎和也, 渡辺宏数, 後藤博三, 柴原直利, 清水忠道, 嶋田 豊: アトピー性皮膚炎に用いる漢方方剤の血液流動性に与える効果. 第 24 回和漢医薬学会学術大会, 2007, 9, 8-9, 富山.
- 44) 乗杉 理, 浅野幸恵, 古市 恵, 竹上與志昌, 渡辺宏数, 坂村律生, 清水忠道: 列序性母斑の治療経験. 第 28 回日本レーザー医学会学術大会, 2007, 9, 14-15, 旭川.
- 45) 山腰高子: 難治性乾癬の治療経験. 皮膚科学術講演会, 2007, 9, 20, 富山.
- 46) 松井恒太郎, 渡邊宏数, 原 寛, 古市 恵, 牧野輝彦, 清水忠道: 顔面に発生した巨大な囊腫型基底細胞癌の 1 例. 第 71 回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 2007, 9, 22-23, 札幌.
- 47) 清水教子, 乗杉 理, 原 寛, 竹上與志昌, 浅野幸恵, 松永憲治, 清水忠道: 先天性捻転毛. 第 71 回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 2007, 9, 22-23, 札幌.
- 48) 原 寛: 成人のアトピー性皮膚炎に多発した伝染性軟属腫の 1 例. 第 15 回北陸ヘルペスウイルス研究会, 2007, 10, 13, 金沢.

- 49) 竹上與志昌, 乗杉 理, 原 寛, 清水教子, 浅野幸恵, 清水忠道: 鱗状毛包性角化症の1例. 第58回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2007, 10, 20-21, 京都.
- 50) 伊藤靖典, 牧野輝彦, 足立雄一, 東山弘幸, 淵澤竜也, 清水忠道, 宮脇利男: アトピー性皮膚炎患者において末梢血 FOXP3 陽性制御性 T 細胞は重症度に相関し増加する. 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2007, 11, 1-3, 横浜.
- 51) 渡辺宏教: 「褥瘡対策の基礎を学ぼう」厚生労働省の褥瘡対策に対する最近の動き. 第1回褥瘡対策会議(職員研修), 2007, 11, 7, 富山.
- 52) 乗杉 理: レーザー治療について. 平成19年度富山県「皮膚の日」講演会(市民公開講座), 2007, 11, 11, 富山.
- 53) 伊藤靖典, 牧野輝彦, 足立雄一, 東山弘幸, 淵澤竜也, 清水忠道, 宮脇利夫: アトピー性皮膚炎患者において末梢血 FOXP3 陽性制御性 T 細胞は重傷度に相関し増加する. 第37回北陸アレルギーセミナー, 2007, 12, 1, 金沢.
- 54) 古市 恵, 牧野輝彦, 原 寛, 清水教子, 松井恒太郎, 清水忠道, 野澤 孝, 井上 博: プロスタグランジン I2 持続静注製剤(フローラン)による薬疹の1例. 第416回日本皮膚科学会北陸地方会, 2007, 12, 9, 福井.
- 55) 牧野輝彦, 古市 恵, 松井恒太郎, 渡辺宏教, 清水忠道, 澤村大輔, 長崎暁理, 清水 宏: Multiple cutaneous and uterine leiomyomatosis における新規遺伝子変異の同定. 第416回日本皮膚科学会北陸地方会, 2007, 12, 9, 福井.
- 56) 竹上與志昌, 乗杉 理, 原 寛, 清水教子, 浅野幸恵, 崎田茂晃, 清水忠道: Pseudocarcinomatous hyperplasia を呈した苔癬型薬疹の1例. 第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会, 2007, 12, 14-16, 名古屋.
- 57) 野村恵子, 金兼弘和, 牧野輝彦, 清水忠道, 石澤 伸, 安部昭弘, 直江知樹, 宮脇利男: NMP/RARA が関与した aleukemic leukemia cutis の一例. 第49回日本小児血液学会学術大会, 2007, 12, 14-15, 仙台.

◆ その他

- 1) Makino T, Fuiruichi M., Watanabe H., Yoshihisa Y., and Shimizu T.: Keishibukuryogan decreases the disease activity and the level of serum macrophage migration inhibitory factor in patients with atopic dermatitis. Evidence-based Approach to Traditional Medicine and Modern Medicine. Innovative Team Program in Peking University • 21st Century COE Program in University of Toyama (Proceeding), 89-93, 2007.
- 2) 清水忠道: 丈夫がいいね—オフィス健康学—「円形脱毛症」, 北國新聞(富山新聞), 2007, 3, 1.
- 3) 清水忠道: 丈夫がいいね 第5部(上)—オフィス健康学—「16・円形脱毛症」: 36-37, 北國新聞社 2007.
- 4) 清水忠道, 片山一朗: (対談) アトピー性皮膚炎の漢方療法. P&M Kampo, 光原社, 2007, 1, 20, 大阪.
- 5) 清水忠道, 片山一朗: アトピー性皮膚炎と漢方療法(前編). P&M Kampo, 12(2): 26-33, 2007. 光原社.
- 6) 清水忠道, 片山一朗: アトピー性皮膚炎と漢方療法(後編). P&M Kampo, 12(3): 42-51, 2007. 光原社.
- 7) 清水忠道: 富山の先端医療・特殊レーザーでお肌治療. 富山テレビ, 2007, 2, 12, 富山.
- 8) 二階堂敏雄, 清水忠道, 齋藤 滋, 遠藤俊郎, 北川清隆: ヒト乾燥羊膜の機能再生医療材料への実用化に関する研究. (財) ヒューマンサイエンス振興財団平成18年度政策創薬総合研究重点研究報告書(II), 1111-1114, 2007.
- 9) 清水忠道: アトピー性皮膚炎に対する桂枝茯苓丸の治療効果および新しい重症度指標についての検討; 血清 Th2 ケモカイン及び MIF 値を指標として. 富山大学21世紀 COE プログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」研究成果報告書(4. 臨床研究), 95-97, 2007.
- 10) 清水忠道: 紫外線感受性遺伝子は存在するか(エッセイ). Dermatology Today (帝国製薬ホームページ 2007).
- 11) 清水忠道(共同研究者): 天疱瘡患者の遺伝的背景・第4報・尋常性天疱瘡におけるデスマグレイン3遺伝子多型. 厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業「稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究」平成18年度総括・分担研究報告書, 64-70, 2007.